

資格ガイドライン・規程

上級情報処理士

一般財団法人全国大学実務教育協会

資格ガイドライン

【A】	本協会の資格改革の考え方編……………	1
【B】	教育課程編成のしかた編……………	5
	「上級情報処理士」資格教育課程編成……………	5
【C】	資格到達目標達成度評価制度の運用編……………	13

資格認定規程

	上級情報処理士資格認定規程……………	29
--	--------------------	----

資格のガイドライン（**A** 本協会の資格改革の考え方編）

1. 本ガイドラインの概要

このガイドラインは、本協会の資格改革の基本的な考え方に基づいて、当該大学が資格認定を受けようとする場合はむろんのこと、現行の場合も該当するものとして、それぞれについて記載している。したがって、ガイドラインは「A. 本協会の資格改革の考え方」、「B. 資格ごとの教育課程編成のしかた」、「C. 資格到達目標達成度評価制度の運用」、この3つの構成からなっている。

はじめに、本協会の資格改革の経緯について、その概要を述べると、「実社会の変化に対応する実務教育・キャリア教育に係る認定事業を推進し、その質保証をはかる」ため、会員校のご協力のもと、2013年度から中長期的な視点をもって資格改革の取り組みを始めた。第一弾「資格教育課程の見直しと到達目標の明確化」、第二弾「実践キャリア実務士教育課程から始める到達目標達成度評価制度による質保証方法導入の試行検討」、第三弾「全資格の到達目標を達成する教育課程編成と学修成果の可視化の整備」に段階的に取り組みを続け、2023年度までに外形的整備を終える予定とした。それ以降は、第四弾「大学と実社会をつなぐ全資格について、継続的な内容充実化と質保証の実質化」として、長期間の実現を見通している。

この段階的な取り組みは、現在、下記②まで進んでいる。

①資格到達目標のもと資格教育課程編成、または再編に取り組むこと。（2013年度から開始）

②資格到達目標達成度評価制度の整備をする。（2016年度から開始）

この評価制度は、資格教育課程評価の学修成果を、大学教育の単位修得結果と学生自己評価を一連の評価制度として行うもの。この学生自己評価は、協会標準型（※¹）または当該大学が独自に開発した大学独自型（事前提出）のものとし、いずれもルーブリック（※²）を活用する到達目標達成度評価表（※³）で行うこと。（2023年度までに整備予定）

③資格の内容充実化と質保証の実質化を実現する資格改革は、これからも長期的、継続的に取り組むことにする。（2040年度を目途に）

（※¹）協会標準型の到達目標達成度評価表は、ガイドライン C の「資格教育課程履修の学生配布用資料」として添付の到達目標達成度評価表を参照のこと。

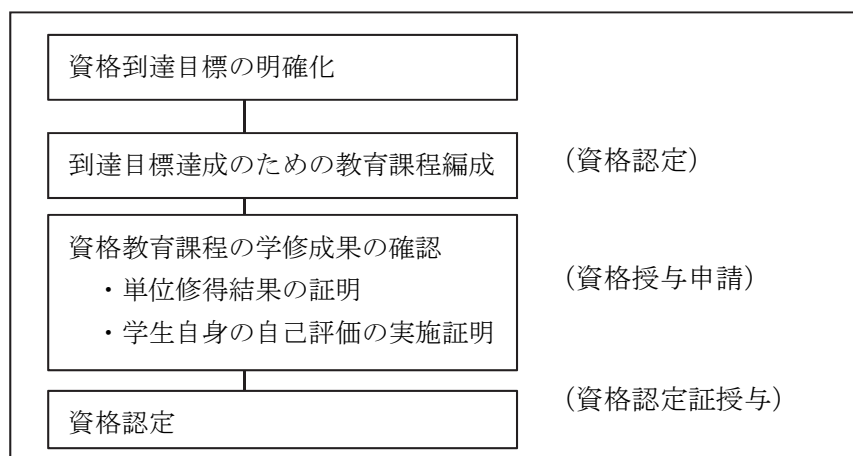
（※²）ルーブリック（rubric）とは、「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、学生が何を学修するのかを示す評価基準と学生が学修到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標である。（中教審大学教育部会 2011年12月9日 説明資料より）

（※³）到達目標達成度評価表およびその運用については、資格ガイドライン「C. 資格到達目標達成度評価制度の運用編」を参照のこと。

2. 資格到達目標達成度評価制度の基本的考え方

本協会の資格認定を受けるにあたって、各大学および短期大学（以下、「大学」と称する）は、協会が定める到達目標とそれを実現する教育課程編成方針に沿って、まず到達目標（開発能力を明示）および具体的な学修目標を策定し、それらを達成する教育課程を編成する必要がある。そして資格授与申請には、この教育課程で学んだ学生各位の学修成果を単位修得結果で証明することに加えて、この教育課程を所定の到達目標達成度評価表で「学生自己評価」を実施すること、この両方を求める。この一連の取り組みを「資格到達目標達成度評価制度」と称し、この制度の導入によって、協会資格の有用性を可視化できると考えている。とりわけ学生自己評価による学修体験が自身の学修継続力を高める一助になり、また当該大学の教育と実社会をつなぐ教育課程の特色を一層鮮明にできると捉えている。

資格到達目標達成度評価制度と協会資格



(1) 協会が示す「到達目標」はどのように策定しているのか

本協会は 1973 年の発足以来、教養教育や専門教育と調和した“実務実践教育”を追求し、大学が担う人材育成に役立つことを目的に活動してきた。その間、就職先、卒業生、教員を対象とする調査研究を実施し、教育目標や教育課程の改善など新たな提案をしてきた。

しかし今、働く現場が常に変化しており、これまでにない新たな問題が起き、複雑な様相を呈している。この予測困難な時代において実務を担うには、汎用的能力や専門領域の知識・スキルの修得にとどまらず、「多様な職業能力の基盤となる課題発見力・創造的解決力と学び続ける力」の修得が重要になっている。そこで 2013 年度から協会資格の資格到達目標を見直して、これまでの人間力を備えた汎用的能力や専門的知識・スキル・態度に加えて、大学教育のベースにおく課題発見力・創造的解決力、学びの継続力（＝総合的実践力）を前面に打ち出す資格到達目標を明確化して、大学と実社会をつなぐ資格教育の実現を目指している。

(2) 協会が示す「資格教育課程の基本的な枠組み」とは

資格教育課程編成の指針となる「資格教育課程の基本的な枠組み」は、次の 3 つの領域からなる。1 つめは「その資格に必要なキャリア・教養を含む基礎的な知識・能力と社会人基礎力」の領域、2 つめは「その資格に必要な知識、スキルを含む実務実践力」の領域、3 つめはどんな働き方になってもその基盤となる「その資格全般に係る課題発見力・創造的解決力と学びの継続力（＝総合的実践力）」の領域である。なかでも、この 3 つめの領域の能力は、大学教育における実現可能な能力として捉え、その教育プログラム開発に重要な意義があると考えている。

資格教育課程の基本的な枠組み

3つ領域	到達目標	開発能力	具体的な学修目標	学修プログラム
領域1 その資格に必要なキャリア・教養を含む基礎的な知識・能力と社会人基礎力の領域	到達目標1	開発能力1	具体的な学修目標	学修プログラムの内容
領域2 その資格に必要な知識、スキルを含む実務実践力の領域	到達目標2	開発能力2	具体的な学修目標	学修プログラムの内容
領域3 その資格全般に係る課題発見力・創造的解決力と学びの継続力(=総合的実践力)の領域	到達目標3	開発能力3	具体的な学修目標	学修プログラムの内容

- ・ 3つの領域と到達目標：3つの領域に対して、各資格教育課程が実現する到達目標を設定している。
- ・ 開発能力：到達目標を達成するために、資格教育課程で開発能力を示している。
- ・ 具体的な学修目標：学生が開発能力を修得するために、達成すべき具体的な学修目標を示している。
- ・ 学修プログラム：授業科目の学修目標を達成するための授業内容、授業方法、授業の組み立てを含むものである。

3. 資格申請業務の簡素化

資格申請時に、2018年度から一括表と称している「資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」を求めている。なお、既に資格到達目標達成度評価制度を導入している大学においては、一括表に学生の「到達目標達成度評価結果」を求めてきた。この記載方法が、2023年度から一部変更となり、簡素化する。資格改革第三弾「全資格の到達目標を達成する教育課程編成と学修成果の可視化」の整備方針による一部変更である。

具体的には、A欄の大学教育として求める「資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」の記載内容は従前通りであるが、B欄の学生自己評価として求める「到達目標達成度評価結果」とその「教員評価」について、その評価方法を一部変え、申請に教員評価の記載を不要とし、教員評価欄をなくして、学生の自己評価のみとした（2023年度申請から義務化）。これまでの制度では教員が評価時期や方法に悩まされるという意見が出ていたので、この変更で少し改善されると思われる。

しかし、この制度の一部変更に伴い、教職員にお願いしたいことは、資格教育課程を学修する学生に、資格授与申請にはルーブリック活用の自己評価表の記入提出が必要であることの事前説明（説明用資料有り）である。

「上級情報処理士」資格ガイドライン (**E**教育課程編成のしかた編)

◇上級情報処理士の教育目標

情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に関係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を身につけている。コンピュータやネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報を作り出し、課題解決のため新しく技術適用の提案ができる力を求める。従来の情報通信技術に加えて、データサイエンスと人工知能(AI)の知識や活用方法を身につけ、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。

1. 「上級情報処理士」の領域別資格到達目標と教育課程編成方針

(1) 本資格の「3つの領域の資格到達目標」「開発能力」「具体的な学修目標」

本資格の3つの領域ごとの「資格到達目標」ならびに、それらを達成するための「開発能力」「具体的な学修目標」を次に示す。

領域1の 資格到達目標	情報社会において情報を適切に扱う知識・技能・働く基本能力をもち、他者への思いやりをもった実務を論理的・倫理的に実践する重要性を理解している。
------------------------	--

開発能力	能力の内容	具体的な学修目標
1-1 情報社会 における 情報の知 識	デジタル技術が発展した情報社会において、情報をもつ特性、その表現方法、社会的影響を理解する力	①情報がもつ特性、その表現方法を理解している。テキスト・画像・動画・音声など多様なデジタルデータの保管や扱いについて説明できる。 ②マスメディアやインターネット上の多様な情報コミュニケーションの手段とその特性、社会的役割や影響を理解している。 ③デジタル技術による社会の発展の可能性やリスクを理解し、著作権・個人情報保護・プライバシー、サイバーセキュリティ等について説明できる。
1-2 情報社会 において 情報を扱 う技能	デジタル技術が発展した情報社会において、情報を選択・編集し、表現する力	④マスメディアやインターネット上で表現された情報の意味や発信者の意図を批判的・客観的に正しく評価し、それを踏まえて情報を有効に活用できる。 ⑤論理的で説得力のある文章・レポートを作成できる。情報を可視化し、的確に伝えるためにグラフ・図を工夫して作成できる。 ⑥テキスト・画像・動画・音声などのマルチメディアを活用し、ユーザインターフェイスを考慮して、資料やWebコンテンツを構想、作成できる。
1-3 情報社会 において 情報を扱 う態度	デジタル技術が発展した情報社会において、客観的判断、適切な行動ができる力	⑦必要な情報を収集し、客観的情報に基づき、論理的に判断できる。他者の考えを踏まえ、自分の考えが客観的に適切かどうかを判断できる。 ⑧情報倫理を理解し、インターネット上で情報共有者、発信者として適切に行動できる。自分の行動が、社会とのコミュニケーションにおいて、どのような意味や価値をもつかを判断できる。

領域 2 の 資格到達目標	情報科学の知識と技能を理解・修得した上で、それらを実務に適切に活用する実践力を有し、成果を出すことができる。
------------------	--

開発能力	能力の内容	具体的な学修目標
2-1 コンピュータとネットワークの知識と実践	コンピュータとネットワークの知識を身につけ、それを活用できる力	⑨コンピュータや情報技術の基本原理を踏まえて、ハードウェアとソフトウェアの関係を理解し、デジタル情報を活用できる。 ⑩コンピュータネットワークの基本原理を理解し、その上の情報の流れとコミュニケーションの特性、情報セキュリティ技術に関する知識を有して情報社会のリスクに対応することができる。
2-2 プログラミングの知識と実践	プログラミングの知識を身につけ、それを活用できる力	⑪データ構造やプログラミングについて理解し、問題解決のためにプログラムの設計・作成を行い、テスト実行し、要求仕様に基づいて修正することができる。 ⑫状態遷移図やデータフロー図などモデル化の手法を活用し、諸課題に対するアルゴリズムを検討・考案し、構築することができる。 ⑬システムの設計・構築・評価・運用のための標準的手法を理解し、起こり得る問題やその対処方法、システム開発プロセスについて知っている。
2-3 データサイエンスと人工知能(AI)の知識と実践	データサイエンスと人工知能(AI)の知識を身につけ、それを活用できる力	⑭データの記述や統計分析など、データサイエンスの基本技術を理解し、活用できる。 ⑮機械学習を中心とした人工知能(AI)技術を理解し、AIによって何が可能になるか、社会にどう影響するかわかる。 ⑯統計的手法や、人工知能(AI)技術によってデータを解析し、実際の問題解決に活かせる。

領域 3 の 資格到達目標	情報社会において、対象となる課題を発見・分析し、客観的に捉え、創造的に解決する基本能力を身につけている。
------------------	--

開発能力	能力の内容	具体的な学修目標
3-1 課題解決の技能	情報社会における課題を解決するための実践的な力	⑰身近な状況の中から課題を発見し、効果的な手法を活用して、課題を解決することができる。 ⑱コミュニケーションの本質を理解し、集団の前で効果的にプレゼンテーションができ、また共同作業において様々な目的で話し合いができる。
3-2 課題解決の態度	情報社会における課題を解決するために適切に行動する力	⑲グループ活動において、相手の立場を理解して合意点を探り、協調でき、必要に応じてリーダーシップを取るなど、適切に活動できる。 ⑳社会の変化を感知し、学びを継続して自分のライフキャリアを考え続けることができる。

（２）必修科目と選択科目の設計

①必修科目

本資格の必修科目は次の３つの領域の資格到達目標を達成する重点科目について、領域１は２単位、領域２は４単位、領域３は２単位、合計８単位を選定して設定する。

領域１ 情報社会においてデジタル技術に関する知識・スキル・働く基本能力を修得し、活用する基礎的実務実践力の領域

領域２ 情報社会においてデジタル技術に関する専門知識・スキルを修得し、総合的に活用する専門的実務実践力の領域

領域３ 情報社会における課題発見・総合的課題解決と学修継続力の領域

上級情報処理士の資格到達目標を実現するために、具体的な学修目標を視野に入れ、上級情報処理士として必要な学修内容を全体的に含む科目である。必修科目を履修することで、上級情報処理士教育課程の中核となる学修成果を達成することができる。

②選択科目

選択科目とは、本資格の具体的な学修目標の達成度を拡充するための科目である。３つの領域から上級情報処理士の資格到達目標および具体的な学修目標の達成度を高めるように、教育課程を設計することが重要である。なお、各領域を複合させた設計も可能である。

２．資格教育課程の編成のしかた

資格改革による教育課程編成の大きな変更によって、当該大学は、協会が示す資格到達目標（開発能力で明示）を踏まえていれば、自学の人材育成にそった教育課程を編成することができるようになった。

しかし、当面は簡便法として、資格教育課程の必修科目と選択科目に関して、協会が示す３つの資格到達目標に対応する「開発能力」および「具体的な学修目標」から、自学の授業科目の教育目標にマッチするものをシラバスで確認し、５割以上選択して教育課程を編成する方法をとる。

したがって、簡便な進め方として「資格到達目標・具体的な学修目標とその達成のための教育課程編成表」（※^１）を次の要領で完成させて提出することができる。

㊦申請する資格教育課程表で、３領域を確認しながら授業科目を仮設定する。

㊧各授業科目の単位数、学修目標、目標を達成するための学修プログラムを明記する。

㊨授業科目ごとにＡ欄から開発能力を選択し、明記する。

㊩選択した開発能力に対応する具体的な学修目標から達成できるものをＢ欄で確認し、選択して明記する。

㊪資格の到達目標を達成するための重点科目を領域ごとに選択し、資格教育課程の必

修科目として●をつけ、その他の科目を選択科目として○をつけておく。

ここで資格教育課程全体を俯瞰し、不備に気づいた場合は修正して授業科目を確定する。

㊦必修・選択科目の単位数が要件を満たしているか確認し、必修単位数と総単位数の合計を明記する。

(※¹)「資格到達目標・具体的な学修目標とその達成のための教育課程編成表」は、記入例の資料参照のこと。

3. 資格到達目標・具体的な学修目標と教育課程編成の例示

(1) 授業科目の例「情報倫理」

授業科目の学修目標 情報倫理に関する基本的知識を理解する。加えて、情報を収集・発信・評価する場面において、情報倫理に基づき、自律的に判断、行動できる力を養う。

開発能力：1-1 情報社会における情報の知識

1-3 情報社会において情報を扱う態度

対応する資格の具体的な学修目標

③デジタル技術による社会の発展の可能性やリスクを理解し、著作権・個人情報保護・プライバシー、サイバーセキュリティ等について説明できる。

⑧情報倫理を理解し、インターネット上で情報共有者、発信者として適切に行動できる。自分の行動が、社会とのコミュニケーションにおいて、どのような意味や価値をもつかを判断できる。

学修項目・学修プログラム

学修項目	学修プログラム
・ 情報社会の光と影 ・ 「情報」と「メディア」の意味 ・ 学問と情報倫理 ・ 個人情報と知的財産権 ・ インターネットと情報倫理 ・ セキュリティ ・ ユニバーサルデザイン ・ 社会生活と情報倫理	講義を通して情報倫理を理解する。その上で、時代や文化によって変化する倫理や規範を自律的に考察し、クラス内での議論を通して、情勢に即した倫理を再構築する力を養成する。

(2) 授業科目の例「ソフトウェア基礎」

授業科目の学修目標 コンピュータおよびソフトウェアについての知識を理解し、ソフトウェアを利用する情報の収集、分析、整理、運用、発信の方法を修得する。

開発能力：2-1 コンピュータとネットワークの知識と実践

対応する資格の具体的な学修目標

- ⑨コンピュータや情報技術の基本原則を踏まえて、ハードウェアとソフトウェアの関係を理解し、デジタル情報を活用できる。

学修項目・学修プログラム

学修項目	学修プログラム
・ハードウェアとソフトウェア ・ファイル・データ管理 ・デジタルで表される情報とデータ量 ・画像と音のデジタル化 ・プログラミングの基本 ・人工知能(AI)の基本と社会	講義を通して、デジタル技術を活用する上で必要となる基礎知識を修得する。加えて、パソコンを使った演習により、情報収集、分析、整理、運用、発信、ソフトウェア開発の概念について学ぶ。

(3) 授業科目の例「Python プログラミング」

授業科目の学修目標 プログラミングに必要な基礎的データ構造を理解し、利用できる。プログラミングに必要な制御構造を理解し、利用できる。基礎的データ構造と制御構造を用い、簡単なアルゴリズムをプログラミングできる。比較的簡単なプログラムの開発に必要な開発環境を整備できる。

開発能力：2-2 プログラミングの知識と実践

対応する資格の具体的な学修目標

- ⑪データ構造やプログラミングについて理解し、問題解決のためにプログラムの設計・作成を行い、テスト実行し、要求仕様に基づいて修正することができる。
- ⑫状態遷移図やデータフロー図などモデル化の手法を活用し、諸課題に対するアルゴリズムを検討・考案し、構築することができる。

学修項目・学修プログラム

学修項目	学修プログラム
・Python 開発環境整備 ・Python によるプログラミングの実際 ・Python の特徴と基本文法 ・変数 ・オブジェクト指向とクラス ・制御構造 - 条件分岐 ・制御構造 - 繰り返し ・文字列と配列 ・メソッドと関数 - メソッド呼び出し ・メソッドと関数 - メッセージ駆動 ・簡単なアルゴリズムの実装 - 配列操作 ・簡単なアルゴリズムの実装 - ソート	発想したアイデアや技法をコンピュータで実行するため、アイデアや技法を具現化する方法を知り、比較的簡単なアルゴリズムを対象としたプログラミングについて学修する。コンピュータに指示可能なプログラミング言語にはPythonを用い、簡単なアルゴリズムの組み合わせで比較的複雑な処理も実現可能であることを実践的に修得する。

（４）授業科目の例「基礎演習」

授業科目の学修目標 コミュニケーションの本質を理解し、身近な状況の中から課題を発見し、段階を踏んで課題を解決できる。グループ活動においては、相手の立場を理解して合意点を探るなどの協調力をもち、必要に応じてリーダーシップを取るなど、適切に活動できる。

開発能力：3-1 課題解決の技能

3-2 課題解決の態度

対応する資格の具体的な学修目標

- ⑱コミュニケーションの本質を理解し、集団の前で効果的にプレゼンテーションができ、また共同作業において様々な目的で話し合いができる。
- ⑲グループ活動において、相手の立場を理解して合意点を探り、協調でき、必要に応じてリーダーシップを取るなど、適切に活動できる。

学修項目・学修プログラム

学修項目	学修プログラム
・ 本授業の概要把握とチーム作り ・ 与えられたテーマ（たとえば「自分たちが通う学校の魅力を見つけよう」）に対してブレインストーミングを実施し、まとめる ・ 他のチームとの共通点や相違点を知る ・ 自分たちより詳しい人たちの意見を集める ・ 集めた様々な情報を分類・分析する ・ 集めた情報を取捨選択し、分析結果を発表する	あるテーマに関して情報を収集し、分析して主張の根拠となる資料を作成し、発表する力を養うことを目標とした課題探究型の授業である。グループ活動においては、5～6人のチームの中で意見をぶつけ合いながら作業を進めることにより、チームの一員としての進め方も学修する。

上級情報処理士の資格到達目標とその達成のための教育課程編成表

記入事例

※下記の該当箇所の□に○を付してください。

大学名	申請する教育課程の実施予定年度	年度から
資格教育課程責任者 所属・役職名・氏名	使用する到達目標	□ 本協会が定める到達目標達成度評価表（協会標準型） □ 大学独自の評価方法（大学独自型）
連絡責任者 所属・役職名・氏名	達成評価の項目	

情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。

◇ 本資格の教育目標

情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。

本資格の到達目標・開発能力・具体的な学修目標一覧

到達目標	開発能力 (A)	具体的な学修目標(B)
情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。	1-1 情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。	①情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。
情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。	1-2 情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。	②情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。
情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。	1-3 情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。	③情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。
情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。	2-1 コンピュータネットワークの知識と実践	④情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。
情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。	2-2 プログラムの知識と実践	⑤情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。
情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。	2-3 データ解析とAI	⑥情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。
情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。	3-1 課題解決能力	⑦情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。
情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。	3-2 課題解決能力	⑧情報社会において、情報通信技術を使ってそれぞれの専門分野に關係する実務を行う者として、必要な情報科学の知識や技術を用いて、必要情報を探知し、必要な情報を集め、それを活用して、新たな情報を生み出し、課題解決のために活用する。コンピュータネットワークのユーザとして技術を活用するだけでなく、新たな情報や人工知能(AI)の知識や活用方法を身に付け、それらが社会へ与える影響を理解した上で、応用できる。さらに、課題を発見・分析し、その解決に向けて主体的に調査し、解決策を検討し、実践できることを目指す。

申請する教育課程

授業科目名	資格必修選択	開発能力 (A)から選択	学修目標 (B)から選択	単位数	申請する授業科目の学修目標	学修目標を達成するための学修プログラム
情報倫理	●	1-1 1-3	③ ⑧	2	情報倫理に関する基本的知識を理解する。加えて、情報を収集・発信・評価する場面において、情報倫理に基づき、自律的に判断、行動できる力を養う。	講義を通して情報倫理を理解する。その上で、時代や文化によって変化する倫理や規範を自律的に考察し、クラス内での議論を通して、情動に即した倫理を再構築する力を養成する。
ソーシャルメディア論	○	1-1 1-3	② ⑦	2	SNSをはじめとした、最先端のソーシャルメディアの事例と在り方を学ぶ。	講義を中心とし、最先端の事例を用いたディスカッションや、実際のソーシャルメディアを用いた体験的学習を行う。
コンピュータ活用基礎	○	1-2	⑤	2	研究、調査、発表のためのコンピュータ活用方法を身につける。	文章作成や情報整理に必要なアプリケーションの基本的な操作を学び、演習を通して、研究、調査、発表のためのレポート、資料作成を行う。
WEB 技術演習	○	1-2	⑥	2	World Wide Web 上で情報を表現、伝達する際に必要となる、基本的な技術を理解する。	HTML、スタイルシートと JavaScript を取り上げ、講義と演習を交えながら Web をメディアとした情報表現のための技術を学習する。
ソフトウェア基礎	●	2-1	⑨	2	コンピュータおよびソフトウェアに関する知識を理解し、ソフトウェアを利用するための情報収集、分析、整理、運用、発信の方法を修得する。	講義を通して、デジタル技術を活用する上で必要となる基礎知識を修得する。加えて、ソフトウェア開発の概念について学ぶ。
Python プログラミング	●	2-2	⑪ ⑫	2	プログラミングに必要な基礎的なデータ構造を理解し、利用できる。プロトタイプを用いて、簡単なアプリケーションをプログラミングできる。比較的前端構造を用い、簡単なアプリケーションをプログラミングできる。比較的前端構造を用い、簡単なアプリケーションをプログラミングできる。	発想したアイデアや技法をコンピュータで実行するため、アイデアや技法を具体化する方法を学び、比較的前端的なアプリケーションを対象としたプログラミングについて学習する。コンピュータに指示可能なプログラミング言語には Python を用い、簡単なアプリケーションの組み合わせて比較的前端的な処理を実現可能であることを実践的に修得する。
情報ネットワーク基礎	○	2-1	⑩	2	TCP/IP と IP ルーティング、ダイナミックルーティングの動作を理解し、Ethernet と仮想 LAN の機能について説明できる。無線 LAN の有効性と課題について理解している。	小規模ネットワークの運用実務に必要な知識と技能修得を目指す。Ethernet の特徴を学ぶ。ネットワーク構築において必須技術となる仮想 LAN、無線 LAN や TCP/IP およびルーティングについて学習する。
アルゴリズムとデータ構造	○	2-2	⑫	2	基本的な制御構造やデータ構造を学び、理解する。そして、基本的な制御構造とデータ構造を使って簡単なプログラムを作成できる。	アイデアをプログラムにするためには、「何を」「どのように」「処理するか」を考える。この「何を」にあたるデータ構造と、「どのように」処理するかをアルゴリズムについて具体的なテーマをもとに学習する。
データ解析と AI	○	2-3	⑭ ⑮ ⑯	2	統計の基礎を踏まえつつ、データ解析の基本的な手法(データマイニング、回帰分析、主成分分析、判別分析など)の多変量解析を理解し、具体的なデータを扱えるようになる。さらに人工知能(AI)の基礎技術となる機械学習を理解する。	ソフトウェアツールとして、統計解析向けプログラム言語である R を利用して演習を行う。検定、回帰分析、主成分分析、判別分析などの解析手法を理解した上で、実際にデータを実行しながら、統計解析を行う力を養成する。加えて、大量で複雑なデータを機械学習によって有効に処理する方法を学習し、機械学習の基礎を体系的に理解する。
基礎演習	●	3-1 3-2	⑰ ⑱ ⑲	2	コミュニケーションの本質を理解し、身近な状況の中から課題を発見し、設備を備えて課題を解決できる。グループ活動においては、相手の立場を理解して合意点を探るなどの協働力をもち、必要に応じてリーダーシップを取るなど、適切に活動できる。	あるテーマに関して情報を収集し、分析して主題の根拠となる資料を作成し、発表する力を養うことを目標とした課題探究型の授業である。グループ活動においては、5～6人のチームの中で意見をぶつけ合いながら作業を進めることにより、チームの一員としての進め方も学習する。
キャリア形成ゼミ～プロジェクト学習～	○	3-1 3-2	⑰ ⑲	2	社会で活動するプロジェクトをテーマとして設定し、ゼミごとに社会的活動の企画・立案・実行・検証の一連のプロセスを経験する。	他者との協同作業を通して企画書を作成し、その企画に基づいてプロジェクトを実施する。さらに、プロジェクトの実施結果を発表し、達成度を客観的に把握し、検証する。
実践事例研究	○	3-1 3-2	⑱ ⑲	2	学んでいくデジタル技術に関する知識のスキル・態度を、働く現場の身近な実践課題にどのように役立てているかを事例研究を通して理解でき、学びの課題に気づくことができる。	学んでいく ICT やデータサイエンス・AI の働く現場の身近な課題にどのように活かされているかを事例研究を仲間と共に取り組み、学びを深めるプログラム。また、外部講師による IoT・クラウド等の活用事例発表による学びも予定する。
インターンシップ	○	3-1 3-2	⑱ ⑲	2	社会での実体験・教育の融合により、高い職業意識の育成や、自主性・独創性のある人材育成を目指す。	事前研修、実習先での就業体験、事後研修、成果発表会を通じて、実践から「働く」を考え、社会の変化を感じ、自らのキャリアを考える機会を得る。

必修修得単位数	領域 1	(2) 単位	領域 2	(4) 単位	領域 3	(2) 単位	総修得単位数	(26) 単位
---------	------	--------	------	--------	------	--------	--------	---------

記入の方法

- ・授業科目ごとに、開発能力を (A) 欄から選択し、開発能力に対応する具体的な学修目標から達成できるものを (B) 欄から選択する。それぞれの番号を教育課程の所定の欄に明記する。
- ・資格必修・選択の欄は、資格の到達目標を達成するための重点科目を領域ごとに選択し、資格教育課程の必修科目として●を明記し、その他の科目を選択科目として○を明記する。なお、必修科目を、選択必修科目とする場合には▲を明記する。

資格のガイドライン

([C] 資格到達目標達成度評価制度の運用編)

1. 資格到達目標達成度評価制度とは

現在、高等教育機関における学修成果の質保証が求められている。同様に、本協会に対しても、資格の質保証、社会的通用性の保証が求められている。この動きが加速することを予想して、本協会は全ての資格の改革に 2013 年から計画的に取り組んできた。まず資格到達目標の設定、それを達成する資格教育課程の再編を進めてきた。また同時に、ルーブリックを活用する資格教育課程全体の学修成果を確認する方法として、「到達目標達成度評価表」(協会標準型)を提案し、学生の自己評価を加える資格の質保証を推進してきた。

この資格到達目標に基づく教育課程の学修成果の評価として、大学の単位認定による評価に加えて学生自己評価を実施し、実務学修の継続力向上へとつなぐこととする。なお、これら一連の評価制度を「資格到達目標達成度評価制度」と称する。

2. 学修の質保証の方法

資格教育課程の質保証には、資格改革において量的データと質的データで総合的に評価することが必要である。本協会では、量的データとしては、大学および短期大学の成績評価をこれにあててきたが、質的データは、ルーブリック(※¹)を活用する到達目標達成度評価表を導入して、資格教育課程全体の学修成果を学生自らが確認できるようにした。この実質化の取り組みを重ねることで、質保証が実現できると考えている。

さて、本協会の資格到達目標達成度評価制度の実現レベルは、資格到達目標を実現化する教育課程編成が整備され、次の「学生自己評価の導入」については、具体には協会が提示する到達目標達成度評価表(協会標準型※²)または当該大学が独自に開発した評価表(大学独自型※³)を活用して行うものとしての取り組みを進めており、実施可能なレベルになっている。つまり評価制度が外形的に整備されてきた段階にあると認識している。

資格改革開始からちょうど 10 年になる 2023 年度から、資格授与申請に際し一括表(※⁴)に資格教育課程の単位認定結果(A)と併せて到達目標達成度評価表の受理(B)に記載の上提出を求めることになる。

そこで、従前に本協会が提案していた学生の自己評価に対する教員評価による確認は省くこととし、当該大学は学生自己評価用の「到達目標達成度評価表(提出用)」を提出することになる。

既に独自の学生自己評価を実施している大学には、同様の一括表による申請により、これまで通りの資格認定証(※⁵)で対応する、また一方で、改組などの個別事情から導入がしばらく遅れる場合には、それに見合った資格認定証で対応することにする。

以上によって、資格を学修する学生の学修成果を担保するとともに、今後も資格の社会的通用性を高めることを会員校と共に目指していきたい。

(※¹) ルーブリック (rubric) とは、「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、学生が何を学修するのかを示す評価基準と学生が学修到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標である。(中教審大学教育部会 2011 年 12 月 9 日説明資料より)

(※²) 本協会が提示する「到達目標達成度評価表(提出用)」(協会標準型)は、C.ガイドラインの資料「資格教育課程履修の学生配布資料」に添付している。

この到達目標達成度制度評価表(提出用)の活用法について、ステップ1は「ルーブリックによる教育課程の到達目標達成度評価表」を活用して、開発能力ごとの自己評価を実施する。ステップ2はステップ1のルーブリックによる自己評価結果を、到達目標達成度評価表(提出用)に転記する。ステップ3は転記結果をもとに、到達目標達成度評価表(提出用)で、領域1、領域2、領域3の到達目標達成度の自己評価結果のまとめをする。最後に、資格学修プロセス全体を振り返って、その内容を「全体振り返りと学修課題」の欄に記入することで、「到達目標達成度評価表(提出用)」の記載は終了する。この一連の自己評価学修によって、各学生の学修継続力向上が期待できると考えている。時間をかけて、学生が自己評価能力を養い、自らの能力開発のための学修課題を形成する力を養うことを真の目的としているので、自己評価結果の数値レベルだけによって資格授与認定が左右されないことを理解しておくことである。

(※³) 当該大学が独自に開発した評価表(大学独自型)について、到達目標の学修成果を学生が確認しやすいものであれば、ルーブリック形式およびそれ以外の評価表も可としている。大事な点は自己評価結果の数値化にとどまらず、時間をかけて今後の自分の開発能力と学修課題を形成する力を養うことの気づきである。

(※⁴) 一括表とは、C ガイドラインに「資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書」として添付する提出用の資料である。

(※⁵) 資格認定証は、C ガイドラインに「資格認定証」として図示するものである。

3. 「資格到達目標達成度評価制度」の運用

「資格到達目標達成度評価制度」は、当該大学の単位認定による評価に、ルーブリックを活用する資格教育課程の学生自己評価が加わる(※⁶)、一連の評価制度である。そこで学生、大学教職員、協会担当者が趣旨を理解し、共に連携することによって、資格到達目標達成度評価制度の効率のよい運用が確立していくと期待している。

(※⁶) 学生自己評価の運用については、C ガイドラインに「資格教育課程履修の学生配布用資料」として添付する。

次に運用の基本ポイントをステップ順に掲げておく。

＜ステップ1＞ 資格到達目標達成度評価制度実施の事前準備

- ・認可済の資格到達目標を達成する「教育課程編成表」の確認をする。
- ・資格授与認定について、資格認定の申請年度からさかのぼって単位認定を行いたい場合は、従前から認めているので、学生に明示して運用する。
- ・学生自己評価のための「ループリックによる資格教育課程の到達目標達成度評価表」と「到達目標達成度評価表（提出用）」の整備をする。なお、協会標準型以外の大学独自型のものの使用を可とする。ただし協会へ評価表を提出する。
- ・教職員による資格履修学生へのガイダンスを行う。（資格教育課程編成表の提示・到達目標達成度評価表の配布・到達目標達成度評価表の提出スケジュール確認）

＜ステップ2＞ 履修確認と事前提出

- ・「（見込）資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」を協会へ提出する。
- ・学生へ「到達目標達成度評価表（提出用）」による自己評価実施と提出締切り日を通知する。（到達目標達成度評価表の再配布可）

＜ステップ3＞ 「大学単位修得と評価表」の提出

- ・「（確定）資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」を協会へ提出する。（一括表(A)(B)欄記入済）
- ・「到達目標達成度評価表（提出用）」を協会へ提出する。

＜ステップ4＞ 資格の認定

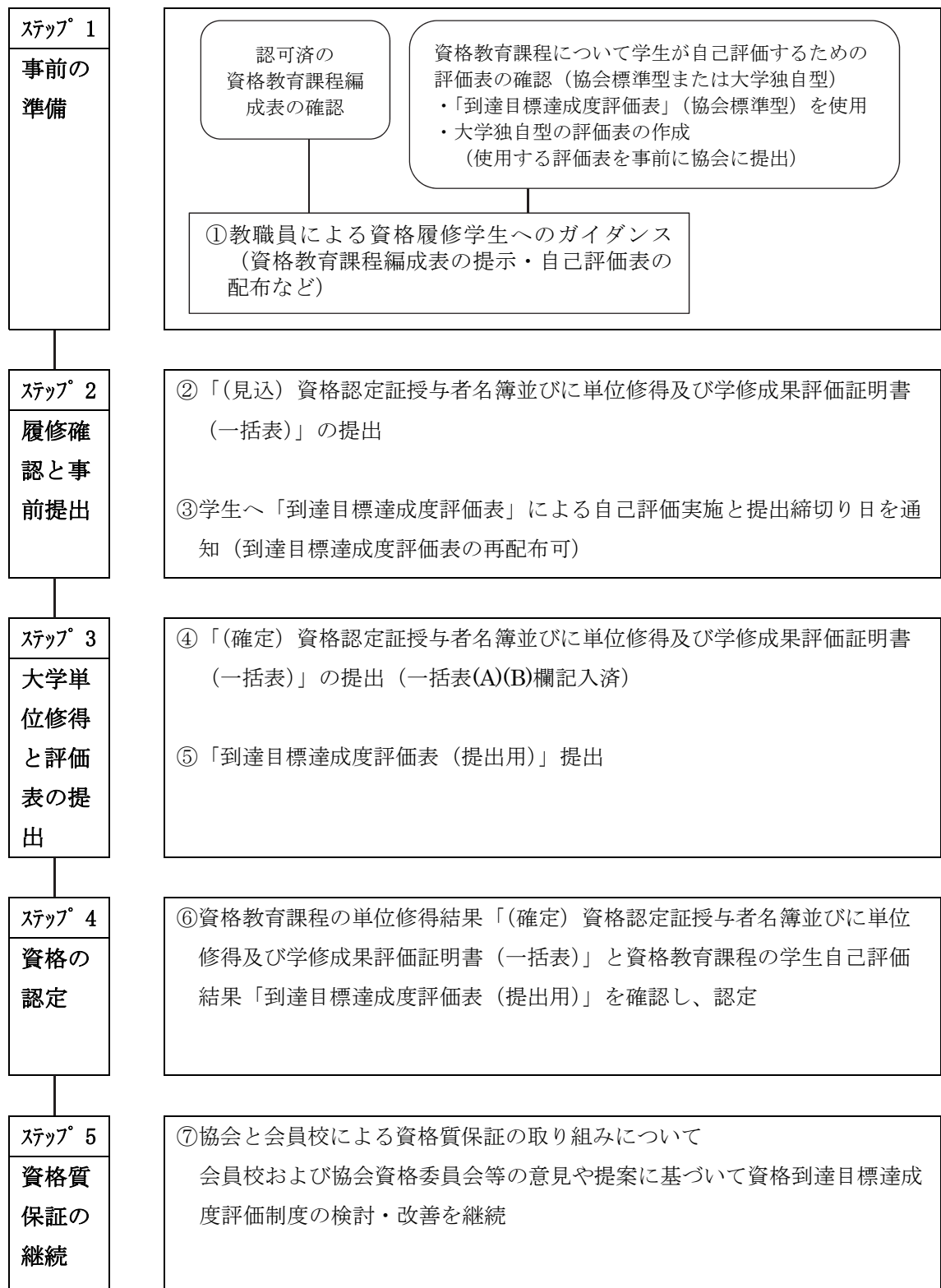
- ・「（確定）資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」と「到達目標達成度評価表（提出用）」を確認し、認定する。

＜ステップ5＞ 資格質保証の継続

- ・会員校間や協会資格関係委員会から出される意見・提案をまとめ、資格到達目標達成度評価制度の運用検討や改善を行い、会員校へ提案を継続する。

「資格到達目標達成度評価制度」運用について、流れ図として次に示す。

「資格到達目標達成度評価制度」運用の流れ図



大学名

(見込) or (確定) 「上級情報処理士」資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書 (一括表)

※授業科目名については記載不要です
 ※ (A) と (B) は必ず記載して下さい

資格到達目標達成度評価制度を
 □導入している

No.	当初申請年度	氏名	フリガナ	生年月日 (西暦)			(A) 大学の教育評価の欄					
							領域別必修科目の 単位数			必修科目 総単位数 ①	選択科目 総単位数 ②	総修得 単位数 (①+ ②)
1							0		0			
2							0		0			
3							0		0			
4							0		0			
5							0		0			
6							0		0			
7							0		0			
8							0		0			
9							0		0			
10							0		0			
11							0		0			
12							0		0			
13							0		0			
14							0		0			
15							0		0			

(注1) 漢字表記は原則「J I S 第1、第2水準」です。

(注2) 大学名・氏名は間違えないよう、記入ください。

(注3) 資格ごとにシートを分けて、1つのExcelファイルにしてください。

※本一括表に記載された一切の個人情報 は本協会が厳正に管理し、資格認定証授与にのみ使用します。

見本



JJ000001号



裏面

「上級情報処理士」の 到達目標達成度評価

●資格到達目標1 〈情報社会において情報を適切に扱う知識・技能・働く基本能力をもち、他者への思いやりをもった実務を論理的・倫理的に実践する重要性を理解している〉

〈開発能力〉

- ・デジタル技術が発展した情報社会において、情報がもつ特性、その表現方法、社会的影響を理解する力
- ・デジタル技術が発展した情報社会において、情報を選択・編集し、表現する力
- ・デジタル技術が発展した情報社会において、客観的判断、適切な行動ができる力

●資格到達目標2 〈情報科学の知識と技能を理解・修得した上で、それらを実務に適切に活用する実践力を有し、成果を出すことができる〉

〈開発能力〉

- ・コンピュータとネットワークの知識を身につけ、それを活用できる力
- ・プログラミングの知識を身につけ、それを活用できる力
- ・データサイエンスと人工知能（AI）の知識を身につけ、それを活用できる力

●資格到達目標3 〈情報社会において、対象となる課題を発見・分析し、客観的に捉え、創造的に解決する基本能力を身につけている〉

〈開発能力〉

- ・情報社会における課題を解決するための実践的な力
- ・情報社会における課題を解決するために適切に行動する力

上記の資格到達目標を全て達成したことを証明する。

〇〇〇〇大学 学長

一般財団法人全国大学実務教育協会 会長

上級情報処理士認定証

CERTIFIED BUSINESS INFORMATION ADMINISTRATOR
IN ADVANCED STUDIES

山 田 太 郎

20△△年1月1日生

あなたは 000 大学において
本協会が認定した上級情報処理士の教育課程を履修し
資格到達目標を達成されましたので本協会定款第6条により
上級情報処理士の資格を授与いたします

20△△年3月31日

一般財団法人全国大学実務教育協会



会 長 森 脇 道 子

東京都千代田区九段南四丁目2番12号

資格教育課程履修の
学生みなさんへ

「到達目標達成度評価表」の提出要領

1. 「到達目標達成度評価表」の提出について

本資格の授与認定の条件として、大学から本協会に対して「資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」と「到達目標達成度評価表（※¹）（提出用）」の提出が必要です。この到達目標達成度評価表の提出を円滑に行うために、履修のスタートと履修終了の時期に、この資料に目を通して対応してください。

（※¹）以下に示す「到達目標達成度評価表」は協作成のものであるが、大学独自に作成する評価表も可としているので、それを使用する場合は各大学の説明に従ってください。

（1）ループリック（※²）を活用する「到達目標達成度評価表」とは

到達目標達成度評価表は、協会資格教育課程の受講結果を、資格の到達目標達成度によって総合的に自己評価するためのものです。この到達目標達成度評価表の活用によって、個別の到達目標（開発能力）をどれだけ達成できたのかを確認し、次にこの資格到達目標の総合的達成度を表示し、最後に達成度をさらに高めるためにはどのような課題があるのかを見つけ、これを今後の自己学修の目標とする。この一連の自己評価学修を可能にする評価表です。

（※²）ループリックとは、「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、学生が何を学修するかを示す評価基準と学生が学修到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標のことです。（中教審大学教育部会 2011 年 12 月 9 日 説明資料より）

（2）ループリックを活用する「到達目標達成度評価表」による自己評価とは

自己評価は、到達目標達成度評価表を活用して行います。その際、自己評価結果の数値（レベル5～レベル1）によって、資格授与認定が左右されることはありません。その理由は、自己評価が時間をかけて自らの能力開発のための学修課題を発見し、自己学修に継続して取り組み、この自己評価能力を養うことを真の目的にしているからです。到達目標達成度評価表の活用による一連の自己評価活動が徐々に自己評価能力を高め、その後の学修継続力となっていくと意識して自己評価に取り組み、その結果をありのまま記述してください。

2. 到達目標達成度評価表の記入方法

（1）学修成果の総合評価のしかた

- ①「到達目標達成度評価表（提出用）」について、領域別到達目標、開発能力、具体的な学修目標の内容確認、および学生自己評価（項目別レベル・領域別レベル）の記入欄の確認をする。
- ②具体的な進め方のステップ1は、「ループリックによる資格教育課程の到達目標達成度評価表」を使用する場合は、自分が到達している学修成果レベルを、レベル5～レベ

ル1で自己評価する。なお、開発能力に該当する授業科目や学修プログラムを履修していない場合は空欄にする。

- ③ステップ2は、ステップ1で行った自己評価結果を「到達目標達成度評価表（提出用）」の該当欄に転記する。その際も、開発能力の項目を全て満たしていなくてもよいので、該当する項目を確認して転記する。
- ④最後のステップ3は、転記結果をもとに、領域1～領域3の到達目標ごとの自己評価達成度をまとめ、総合評価欄の該当レベルに○を記入する。その際、開発能力の評価レベルの平均を出して記載するのではなく、あくまで領域別の到達目標をじっくり確認し、総合的な達成度レベルを決めて記載すること。

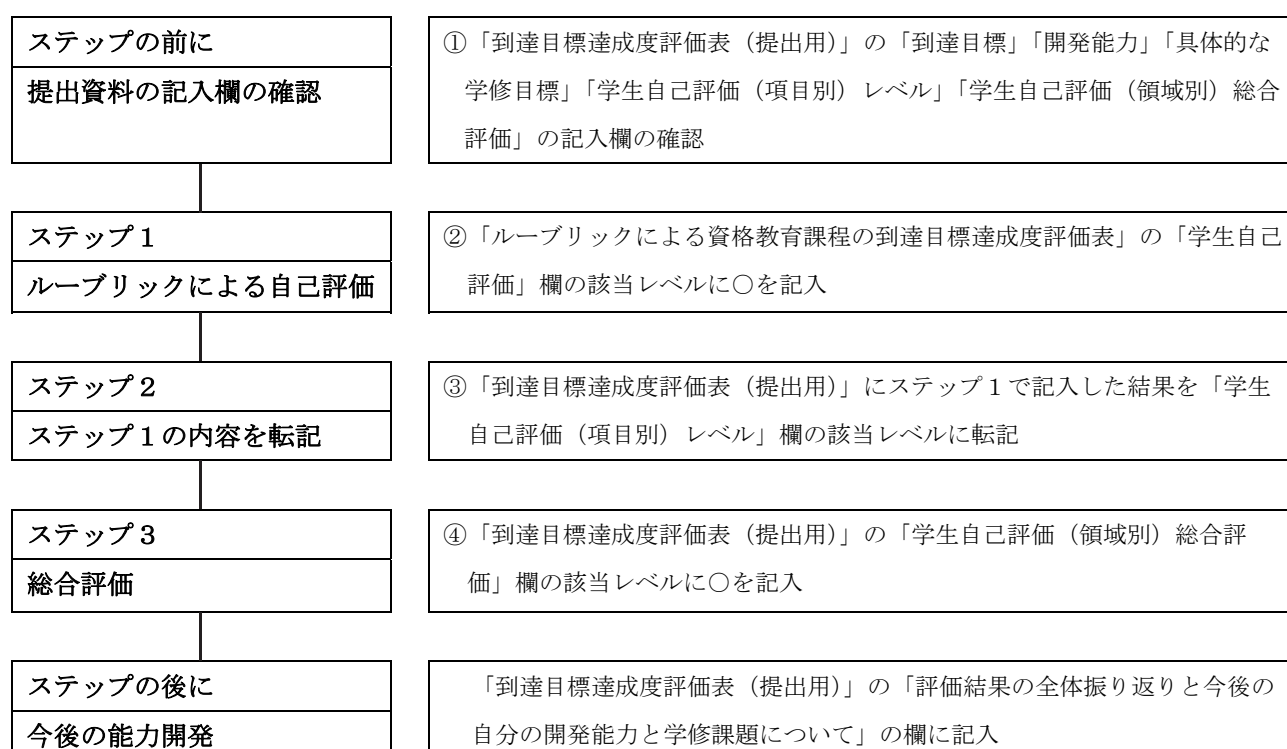
（２）今後の能力開発

- ①学修成果の自己評価プロセス全体を振り返ってその内容を「到達目標達成度評価表（提出用）」の「評価結果の全体振り返りと今後の自分の開発能力と学修課題について」の欄に記入する。
- ②「到達目標達成度評価表（提出用）」の記入が終了したら、控をとって（義務化ではない）、大学の所定の提出先に締め切り日までに提出すること。大学がこの「到達目標達成度評価表（提出用）」の受理の確認の記載を含めた「資格認定証授与者名簿並びに単位修得及び学修成果評価証明書（一括表）」と「到達目標達成度評価表（提出用）」を併せて本協会へ提出をし、最終資格認定を行う。

添付資料 A ルーブリックによる資格教育課程の到達目標達成度評価表

添付資料 B 到達目標達成度評価表（提出用）

到達目標達成度評価表（提出用）の記入方法の流れ図



「ルーブリックによる資格教育課程の到達目標達成度評価表」
【上級情報処理士】教育課程 到達目標達成度評価表

領域 1

資格到達目標	開発能力	具体的な学修目標	レベル 5（90 点以上）	レベル 4（80～89 点）	レベル 3（70～79 点）	レベル 2（60～69 点）	学生自己評価
情報・社会倫理的に実践する適切な能力を扱う知識・技能・働く基本能力をもち、他者への思いやりをもった実務を論理的に説明できる。	1-1 情報社会における情報の知識	①情報をもつ特性、その表現方法を理解している。テキスト・画像・動画・音声など多様なデジタルデータの保管や扱いについて説明できる。	・情報の特性や効果的な表現方法、テキスト・画像・動画・音声などのファイルのオフイスソフトにおける効果的な活用方法や工夫について説明する <u>初心者向けマニュアルを作成できる。</u>	・情報の特性や表現方法、テキスト・画像・動画・音声などのファイルのオフイスソフトにおける重要なポイントや工夫についての重要なポイント <u>を具体的な事例をもとに説明できる。</u>	・情報とは何かを説明でき、テキスト・画像・動画・音声などのファイルの保管における重要なポイントを説明でき、オフイスソフトで利用できる。	・教科書などを使って、情報とは何かを説明でき、テキスト・画像・動画・音声などのファイルを保管し、オフイスソフトで利用できる。	5・4・3・2・1
		②マスメディアやインターネット上の多様な情報コミュニケーションの手段とその特性、社会的役割や影響を理解している。	・マスメディアの種類・特性、インターネット上の多様な情報コミュニケーション手段の種類・特性と利用上の課題を説明する <u>初心者向けマニュアルを作成できる。</u>	・マスメディアの種類・特性、インターネット上の多様な情報コミュニケーション手段の種類・特性と利用上の課題における <u>重要なポイント</u> を具体的な事例をもとに説明できる。	・マスメディアの種類、インターネット上の多様な情報コミュニケーション手段の種類・種類と利用上の注意点を説明できる。	・教科書などを使って、マスメディアの種類を説明でき、インターネット上の情報コミュニケーションの種類・特徴を説明できる。	
		③デジタル技術による社会の発展の可能性やリスクを理解し、著作権・個人情報保護・プライバシー、サイバーセキュリティ等について説明できる。	・デジタル技術による社会の発展の可能性と課題、著作権や個人情報保護の権利についての注意、プライバシーなどの権利の保護の重要なポイント、サイバーセキュリティ上の注意点を説明する <u>初心者向けマニュアルを作成できる。</u>	・デジタル技術による社会の発展の可能性と課題、著作権・個人情報保護・プライバシーなどの権利について重要なポイントを具体的な事例をもとに説明し、サイバーセキュリティ上の注意点を説明できる。	・デジタル技術によって社会がどのようにに変化するか説明でき、著作権の取り扱い・個人情報の保護・プライバシーについて基本的な事項とサイバーセキュリティについて説明できる。	・教科書などを使って、デジタル技術の発展の可能性を説明でき、著作権・個人情報保護・プライバシーおよびサイバーセキュリティについて説明できる。	
1-2 情報社会において情報を扱う技能	1-2 情報社会において情報を扱う技能	④マスメディアやインターネット上で表現された情報の意味や発信者の意図を批判的・客観的に正しく評価し、それを踏まえて情報を有効に活用できる。	・マスメディアやインターネット上の情報の出所を確認し、情報を批判的に評価することによって多様に意味を解釈し、責任をもって情報を有効に活用するメディアリテラシーを実践できる。	・マスメディアやインターネット上の情報の出所を確認し、情報を批判的に評価し、責任をもって情報を有効に活用するメディアリテラシーを実践できる。	・マスメディアやインターネット上の情報の出所を確認し、情報を評価し、責任をもって情報を活用するメディアリテラシーを実践できる。	・マスメディアやインターネット上の情報が発信者の意図のもとで表現されていることが説明でき、情報を評価して活用することの重要性を説明できる。	5・4・3・2・1
		⑤論理的で説得力のある文章・レポートを作成できる。情報を可視化し、的確に伝えるためにグラフ・図を工夫して作成できる。	・作成上の課題や自分自身の問題意識を明確にして、その作成目的に対応する論理を構成して文章やレポートを作成し、主張を裏付けるグラフや図を効果的に活用することができる。	・課題や自分自身の問題意識を明確にして、作成目的に対応する文章やレポートを作成し、グラフや図を使って工夫することができる。	・作成目的に応じた筋道の通った文章やレポートを作成し、情報伝達のためにグラフや図を活用することができる。	・筋道の通った文章やレポートを作成し、グラフや図を活用することができる。	
		⑥テキスト・画像・動画・音声などのマルチメディアを活用し、ユーザーインターフェイスを考慮して、資料や Web コンテンツを構想、作成できる。	・テキスト・画像・動画・音声などのマルチメディア特性を活かして活用し、ユーザーインターフェイスの優れた資料や Web コンテンツを企画・作成し、他人の成果物を評価して改善点を明確にすることができる。	・テキスト・画像・動画・音声などのマルチメディア特性を活かして活用して、ユーザーインターフェイスを考慮した実践的な資料や Web コンテンツを企画し、作成できる。	・テキスト・画像・動画・音声などのマルチメディアを活用して、ユーザーインターフェイスを考慮した基礎的な資料や Web コンテンツを企画し、作成できる。	・テキスト・画像・動画・音声などのマルチメディアを活用して、基礎的な資料や Web コンテンツを作成できる。	

開発能力	具体的な学修目標	レベル 5 (90 点以上)	レベル 4 (80～89 点)	レベル 3 (70～79 点)	レベル 2 (60～69 点)	学生自己評価
1-3 情報社会において情報を扱う態度	⑦必要な情報を収集し、客観的に判断できる。他者の考えを踏まえ、自分の考えが客観的に適切かどうかを判断できる。	・必要な情報を収集し、 <u>多様な情報をもとに考え抜く論理的な議論</u> をすることができ、 <u>他者の考えを受け止めて、自分の考えを客観的に捉え直すこと</u> ができる。 <u>その上で建設的な議論を導く</u> ことができる。	・必要な情報を <u>収集し</u> 、その情報をもとに <u>論理的な議論</u> をすることができ、 <u>他者の考えを受け止めて、自分の考えを客観的に捉え直すこと</u> ができる、 <u>その上で結論を出す</u> ことができる。	・収集した情報に基づき議論を行い、 <u>他者の考えを受け止めて、自分の考えを客観的にまとめ</u> ることができる。	・収集した情報に基づき議論を行い、 <u>他者の考えを用いて、自分の考えをまとめる</u> ことができる。	5・4・3・2・1
	⑧情報倫理を理解し、インターネット上で情報共有者、発信者として適切に行動できる。自分の行動が、社会とのコミュニケーションにおいて、どのような意味や価値をもつかを判断できる。	・情報倫理を踏まえてインターネット上で <u>有効な情報共有・情報発信</u> ができ、 <u>自分の行動を振り返り、インターネットを使って社会的な価値を生み出すための行動指針をまとめる</u> ことができる。	・情報倫理を踏まえてインターネット上での情報共有・情報発信ができ、 <u>自分の行動を振り返って、適正な活動のための実践的上のポイント</u> を具体的な事例をもとに <u>説明</u> できる。	・情報倫理を踏まえてインターネット上で <u>適正な情報共有・情報発信</u> ができ、 <u>自分の行動を振り返って、適正な行動のための基本的なポイント</u> を説明できる。	・情報倫理を踏まえて必要最低限のルールを守ってインターネット上で情報共有・情報発信ができ、 <u>自分の行動が与える影響を考慮</u> することができる。	5・4・3・2・1

領域 2

開発能力	具体的な学修目標	レベル 5 (90 点以上)	レベル 4 (80～89 点)	レベル 3 (70～79 点)	レベル 2 (60～69 点)	学生自己評価
2-1 コンピュータとネットワークの知識と実践	⑨コンピュータや情報技術の基本原則を踏まえて、ハードウェアとソフトウェアの関係を理解し、デジタル情報を活用できる。	・コンピュータや情報技術の基本原則について <u>実例をもとに説明</u> でき、ハードウェアとソフトウェアの適切な組み合わせのもとでデジタル技術の特性を活用して <u>実践的な学修課題に有効な解答を導き出す</u> ことができる。	・コンピュータや情報技術の基本原則を説明でき、ハードウェアとソフトウェアの関係を理解し、 <u>デジタル技術の特性を活用し、実践的な学修課題に対して自分の工夫を加えて解答を出す</u> ことができる。	・コンピュータや情報技術の仕組みについて説明でき、 <u>ハードウェアとソフトウェアの関係を理解し、デジタル技術を活用し、基礎的な学修課題に対して自分の工夫を加えて解答を出す</u> ことができる。	・コンピュータや情報技術の仕組みについて <u>教科書</u> などを使って説明でき、 <u>デジタル技術を活用して基礎的な学修課題に対する解答を出す</u> ことができる。	5・4・3・2・1
	⑩コンピュータネットワークの基本原則を理解し、その上の情報の流れとコミュニケーションの特性、情報セキュリティ技術に関する知識を有して情報社会のリスクに対応することができる。	・コンピュータネットワークの基本原則を説明でき、ネットワーク上の情報通信の特性や危険性を踏まえコンピュータネットワークを有効に活用するためのマニュアルを、 <u>情報セキュリティ技術を踏まえて作成</u> できる。	・コンピュータネットワークの基本原則を説明でき、ネットワーク上の情報通信の特性や危険性を踏まえてコンピュータネットワークを活用するための重要なポイントについて <u>情報セキュリティ技術を踏まえて説明</u> できる。	・コンピュータネットワークの基本的な仕組みについて説明でき、 <u>ネットワーク上の情報の流れ、活用する上での基本的な問題点について情報セキュリティ技術</u> を踏まえて説明できる。	・教科書などを使って、コンピュータネットワークの基本的な仕組みについて説明でき、 <u>情報セキュリティ技術</u> を踏まえて活用上の注意点を <u>説明</u> できる。	5・4・3・2・1

開発能力	具体的な学修目標	レベル 5 (90 点以上)	レベル 4 (80～89 点)	レベル 3 (70～79 点)	レベル 2 (60～69 点)	学生自己評価
2-2 データプログラミングの知識と実践	① データ構造やプログラミングについて理解し、問題解決のためにプログラムの設計・作成を行い、テスト実行し、要求仕様に基づいて修正することができる。	データ構造やプログラミングについて深く理解し、実践的なプログラムを設計・作成し、効率的にテストを実行し、要求仕様書に基づいて正確に修正することができる。	データ構造やプログラミングの基礎を理解し、実践的なプログラムを設計・作成し、テストを実行し、要求仕様書に基づいて修正することができる。	データ構造やプログラミングの基礎を理解し、基礎的なプログラムを設計・作成し、テストを実行し、要求仕様書に基づいて修正することができる。	データ構造やプログラミングの基礎を理解し、基礎的なプログラムを設計・作成し、テストを実行することができる。	5・4・3・2・1
	② 状態遷移図やデータフロー図などモデル化の手法を活用し、諸課題に対するアルゴリズムを検討・考案し、構築することができる。	状態遷移図やデータフロー図などモデル化の手法を効果的に活用し、実践的な課題に対するアルゴリズムを検討・考案し、構築し、結果を評価して、改善点を発見できる。	状態遷移図やデータフロー図などモデル化の手法を活用し、実践的な課題に対するアルゴリズムを検討・考案し、構築することができる。	状態遷移図やデータフロー図などモデル化の手法を活用し、基礎的な課題に対するアルゴリズムを検討し、構築することができる。	状態遷移図やデータフロー図などモデル化の手法を理解し、基礎的な課題に対するアルゴリズムを作成することができる。	5・4・3・2・1
	③ システムの設計・構築・評価・運用のための標準的な手法を理解し、起こり得る問題やその対処方法、システム開発プロセスについて知っている。	システムの設計・構築・評価・運用のための実践的な手法を理解し、起こり得る問題を予測し、事前にその対処方法を設定して、効果的なシステム開発のプロセスを説明できる。	システムの設計・構築・評価・運用のための標準的な手法を理解し、起こり得る問題を予測し、その対処方法を考慮したシステム開発のプロセスを説明できる。	システムの設計・構築・評価・運用のための基礎的な手法を理解し、起こり得る問題を想定したシステム開発のプロセスを説明できる。	システムの設計・構築・評価・運用のための基礎的な手法を理解し、システム開発のプロセスを説明できる。	5・4・3・2・1
2-3 データサイエンスと人口知能(AI)の知識と実践	④ データの記述や統計分析など、データサイエンスの基本技術を理解し、活用できる。	頻度や割合などのカテゴリカルデータと連続データの違いを説明でき、データの種類に応じて適切な代表値、バラツキ、相関などを導き出すことができる。	頻度や割合などのカテゴリカルデータと連続データの違いを説明でき、データを使って代表値、バラツキなどを導き出すことができる。	データの種類や記述について説明でき、データを使って代表値、バラツキなどを導き出すことができる。	教科書などを使ってデータの種類の記述について説明でき、データを使って教科書などを見ながら代表値やバラツキなどを導き出すことができる。	5・4・3・2・1
	⑤ 機械学習を中心とした人工知能(AI)技術を理解し、AIによって何が可能になるか、社会にどう影響するかわかる。	機械学習（ディープラーニング）の基本的な原理とその問題点を説明でき、AI が社会に与える影響や課題を多様な観点から説明でき、それによってどのように対応すべきか自分の考えを論述できる。	機械学習（ディープラーニング）の基本的な原理を説明でき、AI が社会に与える影響・課題を説明でき、それによってどのように対応すべきか自分の考えを論述できる。	機械学習（ディープラーニング）の基本を説明でき、AI が社会に与える影響・課題を説明できる。	教科書などを使って機械学習（ディープラーニング）の基本やAI が社会に与える影響を説明できる。	5・4・3・2・1
	⑥ 統計的手法や、人工知能(AI)技術によってデータを解析し、実際の問題解決に活かせる。	課題解決に最適な統計的手法・人工知能技術を組み合わせてデータを分析し、実践的な課題の解答を導き出し、その結果の有効性を評価することができる。	課題解決に適した統計的手法・人工知能技術を選択してデータを分析し、実践的な課題の解答を導き出すことができる。	基礎的な統計的手法・人工知能技術を使ってデータを分析し、実践的な課題の解答を導き出すことができる。	基礎的な統計的手法・人工知能技術をj使ってデータを分析し、与えられた課題の解答を導き出すことができる。	5・4・3・2・1

領域3

資格 到達 目標	開発能力	具体的な学修目標	レベル5 (90 点以上)	レベル4 (80～89 点)	レベル3 (70～79 点)	レベル2 (60～69 点)	学生自己 評価
創情的に解決する、 社会的に解決する、 基本的な能力を身に つける。対象となる課 題を発見・分析し、客 観的に捉え、	3-1 課題解 決の技 能	①身近な状況の中から課題 を発見し、効果的な手法を 活用して、課題を解決する ことができる。	・身近な状況を幅広く捉え、自ら課題を 発見し、効果的な手法を活用して課 題解決を行い、その結果を評価して 改善案を明確にできる。	・身近な状況のもとで、自ら課題を発見 し、学修した手法を活用して課題解 決を行い、その結果を評価すること ができる。	・身近な状況から課題を明確にし、 <u>学修 した手法を活用して課題解決を行う ことができる。</u>	・身近な状況から課題を明確にし、課 題解決に向けて行動をとることができる。	5・4・3・2・1
		②コミュニケーションの本 質を理解し、集団の前で効 果的にプレゼンテーション ができ、共同作業において、目的に 対して効果的な計画を立案する創造 的な話し合いができる。	・多人数の前で、聞き手のニーズに対応 した説得力のあるプレゼンテーショ ンができ、共同作業において、目的に 対して効果的な計画を立案する創造 的な話し合いができる。	・多人数の前で、聞き手のニーズに対応 したプレゼンテーションができ、共 同作業において互いの考えを理解し 目的を明確にした話し合いができ る。	・多人数の前で、プレゼンテーションを 行い、共同作業において互いの考え を理解し、計画的な話し合いができ る。	・多人数の前で、プレゼンテーション を行い、共同作業において話し合い ができる。	
3-2 課題解 決の態 度		③グループ活動において、相 手の立場を理解して合意 点を探り、協調でき、必要 に応じてリーダーシップ を取るなど、適切に活動で きる。	・多様な相手の立場や意見を理解して 考えを引き出す意見交換をし、自ら の責任を積極的に果たし、グループ 活動状況を把握し、必要に応じてリ スクをとってリーダーシップを取る などでグループ活動に貢献できる。	・多様な相手の立場や意見を理解して 意見交換し、自らの責任を積極的に 果たし、グループ活動状況を把握し、 それに応じてグループ活動に貢献で きる。	・相手の立場を理解して意見交換し、自 らの責任を積極的に果たして、グル ープ活動に貢献できる。	・相手の立場を理解して意見交換し、自 らの責任を果たして、グループ活動 に参加できる。	5・4・3・2・1
		④社会の変化を感じ、学び を継続して自分のライフ キャリアを考え続けるこ とができる。	・社会の変化を将来的な観点から理解 し、学びを継続する課題を具体的に 明確にし、自分のライフキャリアを 築いていくかレポートにまとめるこ とができる。	・社会の変化を理解し、学びを継続する 課題を明確にし、自分のライフキャ リアを築いていくかレポートにまと めることができる。	・社会の変化を理解し、学びを継続する 必要性を理解し、自分のライフキャ リアの方向性についてレポートにま とめることができる。	・自分のライフキャリアの観点から学 びを継続する必要性を説明できる。	

◇評価記入上の注意

※¹ 各レベルに付記する数はあくまで大学教育評価に対応する目安。

※² レベル1の記載はないが、レベル2に達しないものをレベル1とみなして評価する。

※³ 「開発能力」「具体的な学修目標」の達成度自己評価を行う際、そのすべてに対応する授業科目（学修プログラム）があり、また履修しているとは限らないので、
具体的な学修目標を整理して該当するものについてのみ自己評価し、該当しないものは、自己評価をせずに空欄のままにする。

※⁴ 領域別総合評価は、その領域の開発能力の学修目標達成度の自己評価の記載結果を確認し、それをもとにその領域の学修目標達成度について総合的に評価する。
(総合評価の記載は「到達目標達成度評価表（提出用）」に記す)

【上級情報処理士】教育課程 到達目標達成度評価表（提出用）

資格到達目標	開発能力	具体的な学修目標	学生自己評価 (項目別)レベル	学生自己評価 (領域別)総合評価
領域1 情報社会における 情報の知識 ・ 情報社会において 情報を扱う技能 ・ 情報社会において 情報を扱う態度	1-1 情報社会における 情報の知識	①情報をもつ特性、その表現方法を理解している。テキスト・画像・動画・音声など多様なデジタルデータの保管や扱いについて説明できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
		②マスメディアやインターネット上の多様な情報コミュニケーションの手段とその特性、社会的役割や影響を理解している。	5・4・3・2・1	
		③デジタル技術による社会の発展の可能性やリスクを理解し、著作権・個人情報保護・プライバシー、サイバーセキュリティ等について説明できる。	5・4・3・2・1	
	1-2 情報社会において 情報を扱う技能	④マスメディアやインターネット上で表現された情報の意味や発信者の意図を批判的・客観的に正しく評価し、それを踏まえて情報を有効に活用できる。	5・4・3・2・1	
		⑤論理的で説得力のある文章・レポートを作成できる。情報を可視化し、的確に伝えるためにグラフ・図を工夫して作成できる。	5・4・3・2・1	
		⑥テキスト・画像・動画・音声などのマルチメディアを活用し、ユーザインターフェイスを考慮して、資料やWebコンテンツを構想、作成できる。	5・4・3・2・1	
	1-3 情報社会において 情報を扱う態度	⑦必要な情報を収集し、客観的情報に基づき、論理的に判断できる。他者の考えを踏まえ、自分の考えが客観的に適切かどうかを判断できる。	5・4・3・2・1	
		⑧情報倫理を理解し、インターネット上で情報共有者、発信者として適切に行動できる。自分の行動が、社会とのコミュニケーションにおいて、どのような意味や価値をもつかを判断できる。	5・4・3・2・1	
領域2 情報科学の知識と技能を理解・修得した上で、それらを実務に適切に活用する実践力を有し、成果を出すことができる。	2-1 コンピュータとネットワークの知識と実践	⑨コンピュータや情報技術の基本原則を踏まえて、ハードウェアとソフトウェアの関係を理解し、デジタル情報を活用できる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
		⑩コンピュータネットワークの基本原則を理解し、その上の情報の流れとコミュニケーションの特性、情報セキュリティ技術に関する知識を有して情報社会のリスクに対応することができる。	5・4・3・2・1	
	2-2 プログラミングの知識と実践	⑪データ構造やプログラミングについて理解し、問題解決のためにプログラムの設計・作成を行い、テスト実行し、要求仕様に基づいて修正することができる。	5・4・3・2・1	
		⑫状態遷移図やデータフロー図などモデル化の手法を活用し、諸課題に対するアルゴリズムを検討・考案し、構築することができる。	5・4・3・2・1	
		⑬システムの設計・構築・評価・運用のための標準的手法を理解し、起こり得る問題やその対処方法、システム開発プロセスについて知っている。	5・4・3・2・1	
	2-3 データサイエンスと人工知能(AI)の知識と実践	⑭データの記述や統計分析など、データサイエンスの基本技術を理解し、活用できる。	5・4・3・2・1	
		⑮機械学習を中心とした人工知能(AI)技術を理解し、AIによって何が可能になるか、社会にどう影響するかわかる。	5・4・3・2・1	
領域3 情報社会において、対象となる課題を発見・分析し、客観的に捉え、創造的に解決する基本能力を身につけている。	3-1 課題解決の技能	⑰身近な状況の中から課題を発見し、効果的な手法を活用して、課題を解決することができる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
		⑱コミュニケーションの本質を理解し、集団の前で効果的にプレゼンテーションができ、また共同作業において様々な目的で話し合いができる。	5・4・3・2・1	
	3-2 課題解決の態度	⑲グループ活動において、相手の立場を理解して合意点を探り、協調でき、必要に応じてリーダーシップを取るなど、適切に活動できる。	5・4・3・2・1	
		⑳社会の変化を感じ、学びを継続して自分のライフキャリアを考え続けることができる。	5・4・3・2・1	

○評価結果の全体振り返りと今後の自分の開発能力と学修課題について（300字程度 学生記入）

大学コード		大学名		学部・学科	
学籍番号		氏名		教職員提出確認	

上級情報処理士資格認定規程

第1章 総則

(趣旨)

第1条 一般財団法人全国大学実務教育協会（以下「本協会」という。）の定款第6条第2項の規定により、上級情報処理士の資格教育課程の認定及び資格認定証の授与に関する必要な事項については、この規程の定めるところによる。

第2章 資格教育課程

(資格教育課程の認定)

第2条 本協会が有する資格認定証の授与を受けようとする大学（短期大学及び専攻科を含む。以下同じ。）は、本協会の会員校として入会し、併せて本協会が定める資格教育課程の認定を予め受けなければならない。

2 資格教育課程編成等に変更が生じる場合には、必要に応じ変更届を提出し、認定を受けなければならない。

(資格教育課程)

第3条 資格教育課程を設置するにあたっては、大学本来の教育課程を逸脱することなく、履修できるように配慮しなければならない。

2 資格教育課程は、本協会が学修領域ごとに定める資格到達目標を達成できるように教育課程を編成しなければならない。詳しくは「資格ガイドライン」の内容に準拠するものとする。

3 資格教育課程の開設は、原則として大学又は学部・学科単位で行う。

4 資格教育課程については、学則又は別途の規程もしくは細則において定める。

(資格教育課程責任者)

第4条 当該資格教育課程を統括するため、資格教育課程責任者として専任教員1名を配置する。

(施設・設備)

第5条 施設・設備は、情報教育に必要な機能をもつものを備えるものとする。

(図書・学術雑誌等)

第6条 図書・学術雑誌等は、情報教育に必要なものを保有するほか、視聴覚教材も保有するものとする。

(実情調査)

第7条 本協会は、教育の実施状況について、必要に応じ随時実情調査を行うものとし、不適格と認められた場合には資格教育課程の認定を取消すことがある。

(資格教育課程等の自己点検チェックリストによる調査)

第8条 本協会は、資格教育課程等認定後、会員校の資格教育課程の自己点検により質の向上を図るため、隔年度「資格教育課程等の自己点検チェックリスト」による調査を行い、会員校は、その調査結果を本協会に報告しなければならない。

(資格教育課程の認定申請・変更申請)

第9条 資格教育課程の認定申請手続、資格教育課程編成等の変更申請の手続については、資格教育課程認定申請手続要項に定める。

第3章 資格の授与

(資格の授与)

第10条 本協会は、この規程に定める要件を満たした者に上級情報処理士の資格を授与する。

(資格授与要件)

第11条 上級情報処理士の資格を取得しようとする者は、本協会が資格教育課程を認定した大学において、本協会が定める領域ごとに、開発能力の主たるものを含め、資格到達目標を達成しなければならない。その達成には、大学が定める資格教育課程を履修し、次表に定める所定の単位を修得しなければならない。

領域・資格到達目標の区分		開発能力	必修修得 単位数	総修得 単位数
領域 1	情報社会において情報を適切に扱う知識・技能・働く能力を持ち、他者への思いやりをもった実務を論理的・倫理的に実践する重要性を理解している。	・ 情報社会における情報の知識 ・ 情報社会において情報を扱う技能 ・ 情報社会において情報を扱う態度	2 単位 以上	24 単位 以上
領域 2	情報科学の知識と技能を理解・修得した上で、それらを実務に適切に活用する実践力を有し、成果を出すことができる。	・ コンピュータとネットワークの知識と実践 ・ プログラミングの知識と実践 ・ データサイエンスと人工知能（AI）の知識と実践	4 単位 以上	
領域 3	情報社会において、対象となる課題を発見・分析し、客観的に捉え、創造的に解決する基本能力を身につけている。	・ 課題解決の技能 ・ 課題解決の態度	2 単位 以上	

- 「情報活用力診断テスト Rasti」（未来教育推進機構主催）を受験し、得点が520点以上の者については、その得点証明書をもって領域1又は領域2（必修2単位）の開発能力を達成したものとしみなすことができる。
- 大学及び大学以外の施設（大学附置教育センター、高等学校、企業等）における学修のうち到達目標を達成するためのものとして大学が認定するものは資格の単位として取り扱うことができる。
- 第1項に定める所定の単位を修得した者は、本協会が「資格ガイドライン」に定める到達目標達成度評価制度に基づき自己評価（到達目標達成度評価）を行うものとする。

- 5 大学が科目等履修生の資格取得を認める場合は、大学が定める資格教育課程を履修し、到達目標達成度評価を行った者に対して資格を授与する。

(資格授与の申請)

第12条 上級情報処理士資格認定証は、当該大学長の申請に基づき授与する。

- 2 資格認定証の申請手続は別に定める。

(資格授与申請年度等)

第13条 前条の申請は、本協会が資格教育課程の認定をした年度以降、第11条に定める要件を満たした者から適用する。

- 2 申請の期限は、毎年7月末日又は11月末日とし、資格認定証は単位修得結果の確定後、当該申請大学の学長に送付する。

(資格授与の申請費用)

第14条 資格授与の申請に要する費用は、一件あたり7,700円(税抜額7,000円)とする。

- 2 資格を申請し、申請年度中に資格を取得するために必要な科目・単位を修得できなかった者は、申請の翌年度から起算して10年以内に当該科目・単位を修得した場合に限り、申請費用を新たに徴収せずに、資格認定証を授与する。

(資格の使用)

第15条 上級情報処理士の資格は、本協会の資格認定証を授与された者でなければ、使用することができない。

(資格認定証の様式)

第16条 資格認定証の様式は、別に定める。

(証明書の発行)

第17条 資格認定証を授与された者が授与証明を希望する場合は、資格(称号)授与証明書を発行する。

- 2 証明書に要する費用は、一件あたり1,100円(税抜額1,000円)とする。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年11月28日(消費税法の改正公布日)から施行し、平成31年10月1日から適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成28年12月17日から施行し、平成30年4月1日から適用する。
2 この規程の施行に際して「上級情報処理士資格認定に関する規程(平成6年4月1日制定、以下、

「廃止規程」という。)」を廃止する。

- 3 廃止規程により、上級情報処理士の資格認定証を授与された者は、引き続きその資格を使用することができる。
- 4 この規程改正前又は廃止規程により上級情報処理士[㊦]又は上級情報処理士の資格教育課程の認定を受けている大学は、平成29年度の所定の期日までに本協会の定める到達目標達成度評価制度の導入の有無を選択して資格教育課程編成確認届を提出し、本協会の確認を受けなければならない。これにより協会の確認を受けた場合には、第2条に定める上級情報処理士の資格教育課程の変更承認を受けたものとみなす。ただし、この場合にあつては、第11条の規定にかかわらず、原則として平成35年3月31日までは廃止規程の資格の取得の要件の定めるところによることができる。その後の申請手続については第2条に定めるところによる。
- 5 前項による資格認定証の申請手続、申請費用については、第12条から第17条に定めるところによる。

附 則

この規程は、2020年4月1日から施行する。ただし、施行日前に資格教育課程の認定を得ている場合は、なお従前の例によることができる。

附 則

この規程は、2023年4月1日から施行する。ただし、第11条第4項及び第5項の到達目標達成度評価の規定は、直ちに実施することが困難な場合は、本協会に申し出ることにより、当分の間この適用を猶予する。

資格ガイドライン・規程

発 行 2020 年 12 月 1 日

発行所 一般財団法人全国大学実務教育協会

〒 102-0074

東京都千代田区九段南四丁目 2-12

第三東郷パークビル 2 階

電話 03-5226-7288

FAX 03-3263-8633

E-mail jaucb@jaucb.gr.jp

URL <https://www.jaucb.gr.jp>

